

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K03311

研究課題名（和文）メコン地域主義の新たな位相 - レジーム・コンジェスションと「下」からの越境的公共圏

研究課題名（英文）A New Phase of Mekong Regionalism

研究代表者

五十嵐 誠一（Igarashi, Seiichi）

千葉大学・大学院社会科学研究院・准教授

研究者番号：60350451

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、メコン地域主義の新たな政治的位相を実証的に明らかにすることを主眼とする。この目的のために、本研究では次に関するインテンシブな研究調査を実施した。（1）「上」からの開発経済志向の多様な協力枠組み同士の関係性（いわゆる「メコン・コンジェスション」）、（2）メコン・コンジェスションに「下」からの政策提言を行う市民社会アクターのトランスナショナルな活動、（3）メコン・コンジェスションのプロジェクトの一部を担う地方政府の越境的活動。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1に、メコン・コンジェスションの実体とアクター間の複雑な関係を把握することで、いまだ不明瞭なメコン地域主義の行く末とその課題がより正確に予見される。第2に、先行研究では等閑視されてきた市民社会と地方政府の越境的活動を分析することで、新たなメコン地域主義像を炙り出し、脱国家・脱経済中心的な分析的地平を切り拓く。第3に、国際秩序を変えうる新たな国際社会空間としての下位地域（サブリージョン）としてのメコン地域の可能性を問い、国際関係論の新たな領野を開拓する。第4に、以上の分析を通じて、メコン地域に多額の支援を行っている日本の外交政策に対して新たな知見を提供する。

研究成果の概要（英文）：This research aims to examine a new political phase of Mekong regionalism. For this purpose, this research conducted intensive field survies related to the following three dimensions: (1) relations among various development-oriented regimes from above (so called Mekong congestion); (2) transnational activities of civil society actors from below that make policy recommendations for Mekong congestion, and (3) cross-border activities of local goverments that play a part in the projects of Mekong congestion.

研究分野：国際関係論

キーワード：メコン 地域主義 市民社会 地方政府 公衆衛生 漁業管理

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

下位(サブ)地域(ある地域内部で国家同士、国家とその一部、一部同士によって形成される国際空間)に関する研究は、1990年代初頭にアジアの局地経済圏や欧州の環バルト海圏を主たる対象として開始した。その後、欧州で下位地域を政策容器とする INTERREG が導入されると、それを事例とする研究が一気に開花する。その一方で、欧州以外の下位地域に関する研究も試みられているが、その一面(経済や開発)ばかりを照射したものが多く、理論・実証いずれにおいても研究蓄積は乏しい。

これまで申請者は、国家中心主義に修正を迫る省察主義としての「新地域主義アプローチ(NRA)」を援用しながら、より上位のマクロ地域(東アジア、南アジア、南北アメリカ、南部アフリカ、欧州)を分析対象として、市民社会アクターによる「下」からの地域形成力学(地域主義)に関する研究を進めてきた。各地域での現地調査を通じて明らかとなったのは、より下位の地域の方が市民社会アクターを含め多様なアクターが公式・非公式に関与しているという事実である。下位地域は、とりわけ冷戦終結前後から世界各地で形成されてきた。そうした下位地域の形成は、上位のマクロ地域の制度化が進んでおらずとも、インフォーマルに進行している場合が多い。変容著しい下位地域の分析にあたっては、入念な実地観察を要する。それなくしては、容易に理論研究との乖離に直面しよう。

拡大メコン圏(GMS)、成長の三角地帯、環黄海圏など、下位地域には多くの場合、歴史上、国境を跨ぐ生活圏や親密圏が存在する。そうした自然発生的な下位地域は、時に越境経済圏の基盤となり、越境的市民社会の形成を惹起し、国際機関、中央政府、地方政府、NGOなどが競って下位地域を「戦略的用地」として新たなアイデンティティを付与する契機ともなる。下位地域自体が、マクロな国際地域秩序を変容させる原動力ともなりうる。こうした下位地域の実相を、経済一辺倒のアプローチや既存の国家中心的なアプローチ(新現実主義や新自由主義制度論)のみで捉えることはもはや困難である。経済中心・国家中心パラダイムから脱却し、新たな分析モデルを構築することが求められる。その際、市民社会を含めた多様なアクターによるヘゲモニー闘争と地域形成過程のインフォーマル面を重視する NRA の分析視座が有効な出発点となる。

かかる問題意識から本研究では、多様なアクターが関与しながら著しい変容を見せる GMS に注目する。GMS 研究では、もっぱら「国境経済圏」「経済協力」「地域開発」などをキーワードとした経済面(「民」)に関心が集中し、政治学・国際関係論からのアプローチは立ち遅れている。確かに GMS は、経済圏として台頭しつつあるが、同時にそこは主権国家による覇権闘争の場であり、多様なアクターがひしめき合う新たな国際空間でもある。この GMS をサブ地域とした場合、GMS 内の経済回廊で形成されつつある越境的なミクロ地域の動態も注目し値しよう。

### 2. 研究の目的

本研究は、東アジアにおける下位地域としての拡大メコン圏(GMS:インドシナ5カ国+雲南省+広西チワン)の新たな政治的位相を、省察主義アプローチを援用して開拓する。GMSにおける国際協力枠組みの急増と関与するアクターの多様化を踏まえ、以下の4点を研究目的とする。「上」からの開発経済志向のレジーム・コンジェスション(混雑)の実態を解明する。

レジーム・コンジェスションに関与する非国家アクター(市民社会と地方政府)による「下」からのメコン地域主義に注目しながら、多様なアクター間の相互作用を実証的に把握する。そうした GMS の制度間・アクター間の関係が、内部で形成される越境的なミクロ地域の動態と絡み合いながら、GMS の行く末とマクロな地域秩序にいかなる影響を与えるのかを分析する。以上を踏まえ、既存の国家中心的なアプローチに修正を迫る理論的知見を見出し、下位地域主義に特化した汎用モデルを構築する。分析を進める際には、先行研究で疎かにされてきた以下の位相を強調する。

第1に、「上」からのフォーマルな地域主義(「官」)で生じている協力枠組みの混雑という「メコン・コンジェスション」である。これを一種の重複レジームと捉えれば、秩序への促進剤として評価される一方で、衝突や対立を孕んでいることが指摘されている。主権国家による主導権争いも絡むメコン・コンジェスションは、地域に秩序と安定をもたらすのか。レジーム間でいかなる調整が行われうるのか。これらの点を関係機関への調査を通じて明らかにする。

第2に、メコン・コンジェスションに関与する市民社会(「公」)である。「上」からのメコン地域主義の志向性は、市場(「民」)を原動力としながら開発や投資を重視する「新自由主義型/開発志向型地域主義」である。それに修正を迫るべく市民社会アクターが、国際機関等と戦略的に協働・対抗関係を構築していることを、申請者は既に移民労働に関する研究調査を通じて実証している。環境保護や人身売買など多様な分野で越境的連帯を形成する市民社会アクターの活動実態を調査し、「下」からのメコン地域主義(越境的公共圏)の全体像と影響力を把握する。

第3に、「官」と「公」との間に位置する地方政府による「下」からの「もう1つの」地域主義である。申請者は、この地域唯一の政府間組織「メコン機構(MI)」への訪問調査を通じて、地方政府がメコン・コンジェスションに関与していることを発見した。タイを除けば一党独裁により地方分権が未発達な中で、主権国家を飛び越すかのような地方政府による国際レジームとの「越層関係」が、中央-地方関係のみならず地域秩序にどのような変化をもたらすのかを検証する。

第4に、そうした越層関係を有する地方政府の中で、本研究ではとくに国境付近の経済回廊に

位置する地方政府に注目し、現地調査を通じて越境的なミクロ地域の形成を考察する。そこでは既に保健衛生や漁業管理などの分野で、地方政府同士の「越境協力」が開始している。このミクロ地域の検証にあたっては、地方政府のみならず越境的生活圏（「私」）とローカルな市民社会（「公」）の変容にも留意しながら、GMSの底流での確かな変化を読み取ってゆく。パッチワーク的に形成されるミクロ地域とサブ地域としてのGMSが、いかなる関係を紡ぎ、地域秩序にいかなる影響を与えるのかを、欧州の経験とも比較しながら徹底的に分析する。

### 3. 研究の方法

本研究では、理論研究と現地調査を同時並行で進める。1年目は、レジーム・コンジェスションに関する理論研究を進めながら、関連する国際機関や政府機関への聞き取り調査と一次資料の収集に取り組む。2年目は、メコン越境的市民社会の実態を明らかにすべく、市民団体への調査を行う。3年目と4年目は、南北経済回廊と東西経済回廊に位置するミクロ地域の調査を徹底的に行い、とくに地方政府同士の越境協力とローカルな越境的公共圏・生活圏・親密圏の実態を把握しながら、研究の総括に向けて下位地域主義の汎用モデルの構築に取り組む。

### 4. 研究成果

2015年度は予定通り「上」からのメコン地域主義に焦点を当てて研究を進めた。メコン地域では、「メコン・コンジェスション」と呼ばれ、重層的に国際レジームが形成されている。この「メコン・コンジェスション」に関する国際機関・レジームの中で、研究調査対象としたのは、以下のとおりである。大メコン圏（GMS）経済協力プログラム、メコン河委員会（MRC）、メコン機構（MI）、日ASEAN経済産業協力委員会（AMEICC）、エーヤーワディ・チャオプラヤー・メコン経済協力戦略（ACMECS）、メコン河下流域開発（LMI）。現地調査による関係者への聞き取り、一次資料・二次資料の解読を通じて、各協力枠組みの関係の把握を試みた。とりわけレジーム間の相補・相克関係の実態が明らかとなった。研究成果としては、2015年6月にアジア政経学会において、本研究の予備的考察として「メコン地域主義の新たな政治的位相」と題する学会報告を行った。同報告を踏まえて、「もう1つのメコン地域主義」と題する論考を『東アジアにおけるサブリージョナル・ガバナンスの研究』（2013-2015年度科学研究費補助金基盤B研究成果報告書）の中で分担執筆した。

2016年度は、前年度から引き続いて「メコン・コンジェスション」に関する聞き取り調査を行った。まず、ベトナム・ハノイにおいてGMS経済プログラムとMIのフォーカルポイントに聞き取り調査を行った。また、MIのドンハ支部を訪問し、MIが関与するベトナム・ラオス・ミャンマーの地方政府による越境経済協力についての最新の情報を得た。加えて、メコン地域を代表する市民社会ネットワークであるSave the Mekong Coalitionに関する市民社会ネットワークへの聞き取り調査をハノイ・フエ・ダナンで行った。その際、ベトナム・ダナンからラオスのデンサバンまでの東西回廊と国境の調査も試みた。研究成果としては、2016年7月に日本平和学会の機関誌『平和研究』に「東アジアの平和の再創造」と題する巻頭言を公表した。同論文では、メコン地域を含む下位地域を平和学の視点から論じ、東アジアにおいては下位地域が重層的に形成され、それが新たな地域秩序への橋頭保となりうることと市民社会の参画が各下位地域で進んでいることを指摘した。2016年11月には国際シンポジウムにおいて、市民社会の視座からメコン地域とその内部のミクロ地域の実態を論じた。2017年3月に刊行された『東南アジア地域研究入門 3 政治』では「市民社会」の章を担当し、地域主義研究の新たな理論的地平を開拓するために、ネオグラム主義を援用しながら、「メコン・コンジェスション」の現状と市民社会の関与の実態を考察した。

2017年度は、引き続き「メコン・コンジェスション」に関する現地調査を行った。カンボジアではJICAの事務所、タイではAMEICC、タイ国際協力機関（TICA）、MI、人身売買に対する国際協力行動（UN-ACT）の関係者に聞き取り調査を行った。市民社会ネットワークについては、ベトナムでメコン移民ネットワーク（MMN）と世界自然基金（WWF）カンボジアでNGOフォーラムカンボジアの関係者にインタビューを行い、メコン市民社会ネットワークの実態把握に努めた。調査の過程で南部回廊とベトナム・カンボジアの国境の調査も行った。研究成果としては、メコンを含む東アジアの地域主義と市民社会に関する理論的・実証的研究に関する『東アジアの新たな地域主義と市民社会』（勁草書房、2018年1月）を公表した。また、メコン地域を含む東アジアの移民労働と市民社会に関する論文を『国際移動と親密圏 - ケア・結婚・セックス』（京都大学出版会、2018年）の中で公表した。加えて、メコンに関する国際シンポジウム『「メコン・コモンズ」から「メコン共同体」へ』を企画し、冒頭の特別パネルで「From Mekong Commons and Mekong Community」と題する報告を行い、「メコン・コンジェスション」の現状とメコン市民社会ネットワークについて議論した。

2018年度は、市民社会ネットワークに関する研究成果のまとめを行い、「Alternative Mekong Regionalism: From the Perspective of Regional Hegemony and Civil Society」（in Hidetoshi Taga and Seiichi Igarashi, eds., *The New International Relations of Sub-Regionalism: Asia and Europe*, London: Routledge, pp. 71-106）を公表した。同論文では、環境、開発、エネルギー、移民労働に関わる代表的な市民社会ネットワークの活動を「下」からのもう1つのメコン地域主義と位置づけて実証

的に分析するとともに、地域的ヘゲモニー (Regional Hegemony) という理論的パースペクティブを導入し、「上」からのメコン地域主義としての多様な地域的レジームと「下」からのメコン地域主義としてのトランスナショナル市民社会とのヘゲモニー的関係をも検証し、「参加型地域主義」よりも「コーポラティズム地域主義」が優位であることを明らかにした。国際協力枠組みの実態把握のために、タイを訪問し、ACMECS と MRC に関する資料収集を行った。あわせて市民社会ネットワークに関する補足調査をも実施した。メコン・コンジェクションについては、それを「レジーム・コンプレックス」と捉え、先行研究の分析と理論的考察にも取り組んだ。

2019 年度は、政府レベルの越境協力のフォローアップ調査と未だ十分に実態が把握できていない地方政府レベルの越境協力の焦点を絞って研究を進めた。政府レベルでの越境協力については、バンコクを拠点に ACMECS、LMI、MI、メコン川疾病監視 (MBDS) に対して聞き取り調査と資料収集を行った。地方政府レベルの越境協力についても入念な現地調査を実施した。1 つは、漁業管理の分野であり、調査地はラオスのボケオとタイのチェンライである。ここでは、メコン川を挟んで対面する村同士の協力プログラムの実態について入念な聞き取り調査を行った。もう 1 つは、MBDS に関わる公衆衛生分野であり、調査地はラオスのサバナケットとタイのムクダハンである。ここでは、県・州の保健省、国境の検疫所、関係する NGO などへの聞き取り調査を実施した。

以上の研究成果と調査結果を集約し、メコン地域主義に関わる三位相 (国際協力レベル、地方政府レベル、市民社会レベル) を同時に議論の俎上に載せた分析枠組みをレジームコンプレックス理論を援用しながら検討し、三位相をそれぞれ事例研究として単独の論文にまとめる作業を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 32(1・2)
2. 論文標題 東アジアにおける人権規範の「地域適合化」と市民社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学法学論集	6. 最初と最後の頁 49-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S09127208-32-1-P49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 45
2. 論文標題 ASEANが抱える人権と民主主義の隘路	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 46
2. 論文標題 東アジアの平和の再創造	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 i-xx
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Seiichi Igarashi
2. 発表標題 From the ‘ ‘Mekong Commons’ ’ to a “Mekong Community”
3. 学会等名 International Symposium ‘ ‘From Mekong Commons to Mekong Community,’ ’
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Seiichi Igarashi
2. 発表標題 Civil Society 's Participation in Multi-Layered and Multi-Stakeholder Regions: Toward People-Centered Development
3. 学会等名 Chiba Studies on Global Fair Society International Symposium
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 五十嵐誠一
2. 発表標題 メコン地域主義の新たな政治的位相
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Hidetoshi Taga and Seiichi Igarashi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 240
3. 書名 The New International Relations of Sub-Regionalism: Asia and Europe	

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 東アジアの新しい地域主義と市民社会 - ヘゲモニーと規範の批判的地域主義アプローチ	

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 312(247-298)
3. 書名 国際移動と親密圏 - ケア・結婚・セックス	

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 344(235-252)
3. 書名 東南アジア地域研究入門 3 政治	

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 117 ( 99-104 )
3. 書名 ASEANの統合と開発 - インクルーシブな東南アジアを目指して	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----